大学院：リーダーシップ開発コース科目

教員研修プログラム開発演習
－四国教職アライアンス単位互換授業の取組－

教育実践高度化専攻　露口健司

授業の到達目標

授業の到達目標は「スクールリーダーとしての自覚のもと，今日の学校を対象とする新たな研修（校務系・マネジメント系研修）を開発するための知識を習得するとともに，実際に開発し提案することができる。」である。現職教員を対象とした授業科目である。

授業計画

本授業は，以下に示す 6 つのテーマから構成されている。

（1）業務改善研修
（2）コンプライアンス研修
（3）管理職研修
（4）若年層教員育成研修
（5）教員研修プログラム発表

授業方法

鳴門教育大学教職大学院生が参加しての双方向型遠隔通信方式の授業を 9 月 18 日（土）と 10 月 4 日（日）の 2 日間，Zoom を利用したオンライン授業として実施した。10 月 16 日（土）の発表会は全員対面にて実施した。受講者は愛媛大学 7 名，鳴門教育大学 2 名の計 9 名である。2 日間で学んだ内容を生かし，4 名の院生が代表者として研修プログラム案を発表した。

4 名の院生のうち，3 名は業務改善をテーマとする研修を提案した。1 名は地域連携テーマの研修提案であった。

研修プログラムの発表後，鳴門教育大学の小坂教授，愛媛大学の山本特定教授による指導助言を頂いた。

工夫した点

本年度は，Google フォーム，JamBoard，テキストマイニング等のアプリ利用方法の学習を事前予習とした。動画教材も数多く出されており，問題なく学習することができた。学習内容は，研修プログラムにも生かされていた。

校内研修におけるデジタルと紙の比較を行うため，模造紙を利用した活動も，意図的に活動に含めることとした。複数の大型パネルが整備されていない今日では，グループでの協働活動場面では，紙の方が効果が大きいことが分かった。

授業評価

自由記述アンケートでは，「提案した研修プログラムを，校内の若手教員対象で実施したところ，業務改善とはすべての教職員が主体的に取り組むべきものであることを理解していた」「業務改善研修にプライベート要因の公開を含むことで，同僚間の信頼関係が深まった」「校内での試行を通してコミュテニィ・スクールに対する関心の高まりが認められた」等の記述が寄せられた。

次年度以降の改善点

本科目は，現職院生が発案したした研修プログラムを，授業中に実際に体験する形式をとるため，1 人あたりの発表時間が 1 時間を超えるものとなっている。したがって，受講生が多い場合，全員の発表が困難となる。時間配分についての課題が残されている。

また，受講生がすべて管理職候補者（40 歳代後半世代）であり，ほぼ男性であるため，若年層教員や女性教員の反応が，十分に補足できない。勤務校での事前事後の試行の位置づけについてさらに検討する必要がある。